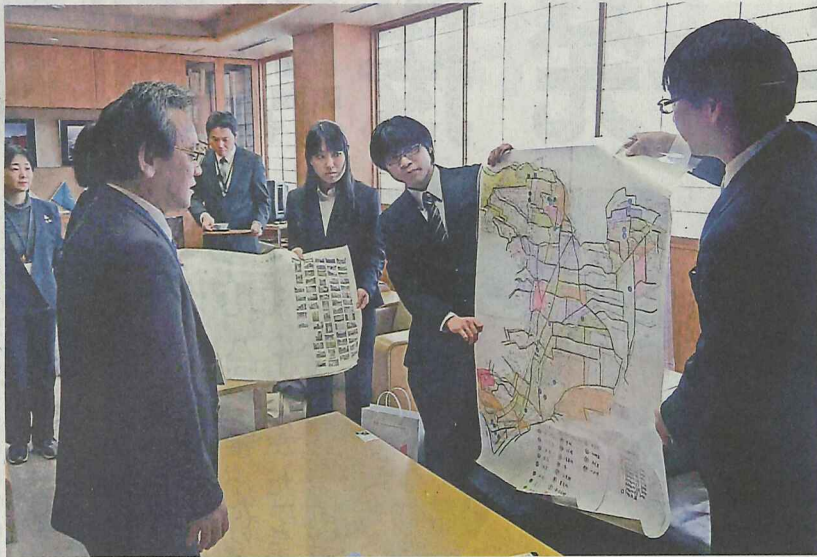


大山崎町が大阪人間科学大（大阪府摂津市）と共同で昨年から進める「介護予防新規事業構築プロジェクト」で、同大学が異世代間の交流や人材育成を通じた介護予防事業の提案を盛り込んだ報告書を町に提出した。報告書を受け、町は2013年度から新たな事業を開始する。

助け愛隊で介護予防

大学の専門性と若者の 報告書では、長期的な発想を施策に生かそう 観点に立ち、幅広い世代と、町が同大学医療福祉が参加する仕組みの必要学科介護福祉専攻に協力 性を指摘する。「人づくを依頼した。昨年5月から」を中核と位置づけ、らプロジェクトを立ち上 「拠点づくり」「意識づけて、実地調査や住民参 くり」を進めるとして、加のワークショップなどる。

具体的には、「助け愛



世代間交流や人材育成提案

隊（仮称）」を結成し、研修、講座を通してボランティアやリーダーなどの人材を育成する。また、地域ごとなどの介護予防サークルを作り、町が支援する体制を構築する。住民同士が話し合う「サミット」を開催し、自分たちで介護予防への取り組みを企画、実践できるようにすることを目指す。

3月29日に同大学の学生らが町役場を訪問し、中村実副町長に報告書を手渡し、概要を説明した。4年鈴木和成さん（21）は「町を歩いて人と接することで、高齢化や子育てなどあらゆる問題がリンクしていることが学べた」と振り返った。4年信岡絵里奈さん（21）は「この報告書が、住みよい明るい町づくりに役立ってほしい」と話した。

町は13年度から「助け愛隊」の募集や養成講座の開始など、報告書を生かした介護予防事業を展開する。

中村副町長 左に報告書の概要を説明する

学生たち（大山崎町役場）

（峰政博）